

令和5年6月 青葉区議員団会議 会議録	
開催日時	令和5年6月12日（月） 午後4時00分～午後5時00分
場 所	青葉区役所会議室及びWeb会議
出席者	<p>【議長】 田中ゆき議員</p> <p>【議員：10名】 山下正人議員、伊藤くみこ議員、横山正人議員、藤崎浩太郎議員、行田朝仁議員、おさかべさやか議員、赤野たかし議員、内田みほこ議員、小島健一議員、青木マキ議員</p> <p>【説明局員：26名】（青葉区：24名） 中島区長、吉田副区長、青木福祉保健センター長、壺井福祉保健センター部長、鈴木土木事務所長、瀬上消防署長、ほか関係職員</p>
次 第	<p>報告事項</p> <p>1 令和5年度 青葉区内の主要な事業について (区政推進課 資料1)</p> <p>その他</p> <p>1 青葉警察署管内の情勢について (青葉警察署 資料2)</p> <p>2 青葉区火災・救急状況（令和5年5月31日現在） (青葉消防署 資料3)</p>
報告事項1	令和5年度 青葉区内の主要な事業について
発言の要旨	<p>資料1に基づき、青葉区から報告。</p> <p>内田議員 1番「DX」の2段目の「自治会町内会のSNS活用支援」について伺いたい。SNSで町内会の効率化や利便性向上をサポートする、とあるが、中身はどのようなことを考えているか。また、夏祭りなども再開され、大きな行事が各所で点在するが、大雨等で中止になった際の中止や延期のご案内なども含まれるのか。もしできたら、行事の中止や延期などの情報が調べたらすぐヒットするようなサポートを、3年後、4年後を見据えて考えられないか。</p> <p>帰山地域振興課長 自治会町内会のSNS活用支援だが、今年度の新規事業として始めさせていただく。各自治会の役員の方を中心に、様々な地域活動の中心となっただけに、主に連絡調整で非常にご負担がかかっていると聞いている。そのため、LINEの使い方での連絡調整のご負担をもう少し軽くできないかということで講座を実施させていただく。そちらのニーズが高いようであれば、各地域に講師の方がお邪魔をして展開するといったことを今年度はまず始めていきたいと思っている。また、地域のイベントの発信については、また別の事業でそういったことができないか</p>

	<p>ということは検討していきたい。</p>
内田議員	<p>例えば区のホームページに、何々公園でやる夏祭りは豪雨のため中止、などSNSでなくてももっと分かりやすい方法があればそれを順次、3年後ぐらいを見据えて、ぜひ検討していただきたい。</p>
山下議員	<p>脱炭素、ペロブスカイトについて、昨今、岸田内閣でも予算をつける方向となっている。政府を挙げて取り組んでいくという段階になってきたときに、もう周知という話ではないのではないかと思っている。当時は知らない方が多かったため周知でよかったが、周知の段階を超えて実証実験をしていかないとならない。横浜の大学で開発したこの新しい技術を、実証することによって横浜から発信していくべきである。また、同じページに記載のある、GREEN × EXPOとも仕掛けをしていきたいと考えている。都市整備局とも少し話をしているが、周知の段階から変えていかないと、青葉区は取り残されていくのではないかと思う。</p>
渡辺区政推進課長	<p>周知の段階にはないというのは、同じ認識である。例えば実証実験については、温暖化対策本部とも調整しているところである。一方で、実情は、なかなか実証実験をするものがないという状況があり、温暖化対策本部で、各メーカーと開発状況や実証実験について調整しているところである。もちろん、その折には青葉区でぜひ実証実験をしたいことは、温暖化対策本部にも伝えている。実証実験ができる段階になれば、青葉区でもいち早く手を挙げる準備だけは確実にやっていきたいと思っている。</p>
青木議員	<p>4番「交通」の④に、「バス路線の維持・充実に向けた取組」という項目がある。青葉台から日体大を結ぶ路線の連節バスなど、バス路線の大きな変更が検討されてきたかと思うが、現在の進捗と方向性を伺いたい。</p>
井波区政推進課担当課長	<p>連節バスについては、青葉台から日体大に行く路線の導入を検討している。再編については、日体大まで連節バスで輸送力を上げていく。一方で、便数が少なく、また利用者数の課題があった奈良の方に入っていくバスのうち1つの路線を日体大の方に回し、そこで乗り換えて青葉台に出るといった形で現在進めているところである。地域でアンケートを取り、全てそちらに振り替えるのか、1便でも2便でも残すのか、といった案を、現在は詰めていく段階にある。</p>

青木議員	<p>学園台の方から来るバス路線については、かなり地域からのお声があったと聞いている。情報が不正確だったということも伺っており、提示された案の中に日体大の施設に関する食堂や図書館が開放されていると示されていたが、実際には食堂や図書館の一般開放は行われていなかったと聞いている。そのあたりを加味して決定がされているのかどうか、確認させていただきたい。</p>
井波区政推進課担当課長	<p>学校の中の施設のお話であれば、コロナの影響で施設を開放していない時期があったが、幾つかの施設は開放されていると聞いている。その点については、バス路線の話とはまた別の話として、地域貢献の話があると認識している。バス路線に関しては日体大の折り返し地点で乗り換えるという形でご説明を差し上げてきたと理解している。</p>
青木議員	<p>アンケートを取った際に、日体大を経由した場合にこういうことがある、というご紹介の中に、そういった文言があったと聞いている。一方で、実際に行ってみたら、一般開放はしていなかったというような現実問題の齟齬があったと聞いている。そこはきちんと精査をしていただき、地元の方の声が最大限生かされるような方向になっていくよう、地域に寄り添っていただきたい。</p>
赤野議員	<p>4番「交通」の④「バス路線の維持・充実に向けた取組」の項目について、コロナも落ち着いて少しずつ人の流れが戻っているところだと思うが、区内のバス、例えば深夜バスなどはコロナ前と比べてどの程度戻っているかなど、現在の状況を区役所で把握しているか。</p>
井波区政推進課担当課長	<p>コロナ前とコロナ後の間にバス便の数を減便したという話は把握していない。乗降者数に関しては、事業者と話す段階で、定期利用者がまだ若干戻っていないというようなレベルの話は聞いているが、具体的な数としては把握していない。</p>
赤野議員	<p>深夜バスなどはまだ戻っていないという状況や、区民の方から、バスなどの公共交通機関について、やはり不便をしているという声があるが、その辺りをどう受け止めているのか。さらに、区役所として、要望などを出されているのか。</p>
中島区長	<p>現時点では、特段こちらでの動きはないが、バス事業者も採算の中で営業をしているため、採算が合わないとなると、戻ってくるのはなかなか厳しいのではないかとというのが正直なところである。現在、区民の方</p>

	<p>の働き方も戻りつつある一方で、特に都内の企業などは、通勤をしないう働き方が一般的になりつつある部分もある。そういったことも見据え、今後の状況を見ながら、バス協会やバス事業者に直接働きかけをしていく必要があるのではないかと考えている。</p>
赤野議員	<p>それが採算の問題なのか、または運転士不足によるものなのか、聞けるようであればバス事業者に聞いていただきたい。コロナ前と比べて交通機関に対して非常に不便だというお声が聞こえてくるため、しっかりとその声を区役所として届けていただきたい。</p>
中島区長	<p>もちろん企業のため、全ての情報が開示されない部分はあるかと思うが、区民の皆様の生活の利便性に大きく影響するところであるため、バス事業者の方にもぜひ機会があればお話をしていきたいと思う。その中で、どんなお考えをお持ちなのかをお聞きできれば、そこについてはぜひ皆様とも共有していきたい。</p>
赤野議員	<p>タクシー会社においても、民間事業者のため、それぞれ事情があることはよく承知しているが、夜間にバスが来ず、タクシーに並んでもなかなか拾えない、などの声が聞こえてくる。ぜひ区役所として、そういった問題意識を持っていただく中で、しっかりと声を届けていただきたい。</p>
横山議員	<p>深夜バスが戻ってきていないのは、利用者がいないことや、バス事業者の採算性等が理由だということは理解できる。一方で、戻ってこない場合には、駅からの足をどう確保するかということが、やはり選ばれる街になるための条件であると思う。青葉区の場合は駅から放射線状にバス便が伸びており、それを使って家まで帰るといった生活であるため、バス便がなくなることは大変なことである。深夜バスがないのであればタクシーを使うしかないが、タクシーもないため、長蛇の列となっている。例えば乗合を認めていくなど、様々なやり方を工夫しないと、生活が不便なままになってしまう。そうするとますます街として選ばれなくなってしまふ。深夜バスがない場合の代替手段を考える必要があると思うが、どうか。</p>
中島区長	<p>青葉区は田園都市線の駅を核にしてバス便が出ることで、様々な地域にお住まいの方の交通利便性が確保されているという特性がある。特に夜間、深夜帯の交通手段として、バス便というのはとても大事なものだと考えている。先ほど話に出た相乗りについては法規制があるため、一</p>

	<p>足飛びに何かこれができる、というものが現時点であるわけではないが、深夜バス便をなるべく早急に復活させていただくことがまず第一だと思う。それが見込めないのであれば、それ以外に次の方策として何ができるのかということを考えていかないと、これは区民生活に大きな影響があるものだと思っている。</p> <p>山下議員 現在新石川で実施しているデマンド交通を今後あざみ野などに広げていく際に、ニーズを踏まえたうえで深夜帯の乗合などをうまく使っていないと、さばき切れないと思う。せっかく実証実験をするのであれば、その辺りも少し視野に入れていただけたらどうか。今回エリアを広げて長期間にわたって実施をしており、利用者も増えることも想定されるため、ご検討いただきたい。</p> <p>中島区長 基本的には都市整備局を中心に実施をしているため、今回の実証実験の期間内にその時間帯までできるかどうかは分からない。一方で、当然、利用者の方にアンケートを取るなど、利用者の意向を聞く場面は必ず出てくるため、その中で、例えば深夜帯の需要などを確認していくということもあるかと思う。それが次の実験につながっていく可能性もあるため、そういったことも含めて都市整備局に要望していきたい。</p> <p>おさかべ議員 4～5年前に比べて、子育てアプリができたり、子育てコンシェルジュ、「なしかちゃんねる」、オンラインの相談など、かなり充実してきたと感じている。一方で、横浜市は認可保育園で需要と供給のバランスの問題が起きている。また、ここ数年、コロナが終わったことと合わせ、育児・介護休業法改正により男性育休などもかなり充実してきている。1年以上育休を取る方々が増えたことにより、2歳児クラスなどが埋まってしまっていると把握している。今まで0歳、1歳で入れていたものが、年齢のバランスに偏りが出てきてしまっている問題、こういった問題に関しては、アプリや窓口を通して何か対策を練っているか。</p> <p>福祉保健センター担当部長 確かに保育所は、1歳児、2歳児が入りにくいということは聞いている。3歳児から5歳児のクラスは比較的空いている状況があるため、1歳児の定員を増やすところには補助金を出すなどの取組を行っている。「なしかちゃんねる」などで何かやっているということはないが、定員割れの保育所等を活用して一時預かりをするというようなことも検討している。</p> <p>おさかべ議員 アプリに各園の特徴などの情報を載せる予定はあるのか。</p>
--	---

福祉保健センター担当部長	<p>アプリについては現在、YouTubeの「なしかちゃんねる」やInstagramの「おかわりなしかちゃんねる」で園の紹介などを行っている。</p>
おさかべ議員	<p>保護者の方々は、駅近や園庭があるなどの情報だけで選んでしまう。そうではなく、他にメリットがあると分かれば、需要と供給のバランスが変わってくるのではないかと。園のメリット・デメリットというものも、行政が把握しているのは認可保育園だけだと思うが、せっかくこういったアプリやYouTubeをつくって情報発信を充実させているため、できる限りピックアップしていただくと、需要と供給のバランスや年齢層が偏る問題も解決していけるのではないかと。思う。</p>
福祉保健センター担当部長	<p>Instagramなどでは、保育園の選び方を紹介している。また、コンシェルジュの相談も活用しながら、ご希望の園に入れなかった場合にほかの手立てをご紹介しているが、その辺りは今後も丁寧に行っていきたい。</p>
中島区長	<p>例えばお子さんを保育園に入所させた時と、ある程度年齢がいった時とで、いろいろと事情が変わってくる方もたくさんいらっしゃると思う。そういう意味では、いろいろな情報を提供するというのは大切なことだと考えている。これについては今後、どのように情報を集めてどのように提供していくのが区民の皆さんにとって最も分かりやすく選びやすい、考えやすい形になるのかということを検討していきたい。</p>
藤崎議員	<p>「DX」の項目について、DXを進めようというテーマがある一方で、ご相談に対して、ふさわしい補助事業がない、具体的な相談を承る窓口がないなどのご回答が、市も含めて出てきてしまっている。自治会の方々が何かしようとした時に、メニューがないという返事しかできないというのは、非常にもったいないと思っている。自治会のデジタル化を推進したいというお話が出てきた際に、区役所として受け止められるような方法を設けていただくことが今後の課題ではないかと感じた。何か見解があれば、区長から頂きたい。</p>
中島区長	<p>自治会町内会の皆様も、これまでほとんど電話や回覧板で済ませてきたことを、デジタルを活用する方向に少しずつ動いているように感じている。例えば今年度、新しくデジタル化へ向けた取組としてインターネットやLINEなどを活用した初級者向けの講座の準備をしているところである。一方で、そのニーズが初心者・初級者的な連絡手段のみ、とい</p>

	<p>うものから高度なものまで、地域ごとのニーズや段階というのが本当に千差万別だと思う。そのため、現時点で何がいいのかははっきりと言えない。一方で、やはり地域の方は、インターネットやDXを活用した地域での活動に少しずつ動きつつあるため、その中で、課題に見合う取組とは何なのか、ということについてはアンテナを張り、皆様がデジタル化を進めるに当たって区としてご支援できるものが何なのかというのは、これから見定めていきたい。</p> <p>藤崎議員 ニーズや課題は本当に千差万別だと思う。若い人から出てくるものを、80代の人もいる中で実施することになる。他の自治体の事例が溜まっていけば事例でもいいのかもしれない。まずは相談できる窓口があると、自治会の皆さんの相談から、様々なニーズが出てくると思う。その辺りのニーズをまずは受け止めてもらえるような体制づくりというのが入り口だと思う。ぜひ今後検討していただきたい。</p> <p>伊藤議員 都市計画道路の件について、地元の方から、反対意見が出ていると聞いている。現状の取組状況や課題について伺いたい。</p> <p>天下井青葉土木事務所副所長 記載されている川崎町田線の恩田地区と田奈地区、恩田元石川線の鉄地区について、今年度、川崎町田線は、奈良川をまたぐ橋の下部工事を行う。課題としては、どちらの線も用地買収がまだ全て終わっていない。やはり反対があり、全て順調に用地買収が終わっていない部分もあるため、近隣の方に丁寧に話しながら用地買収の交渉を行っていく必要がある。これは区役所ではなくて道路局が担当しているため区役所としても何か関連する事業で協力できることがあれば一緒に交渉に当たってきたい。</p>
その他 1	青葉警察署管内の情勢について
発言の要旨	資料2に基づき、青葉警察署から報告。
その他 2	青葉区火災・救急状況（令和5年5月31日現在）
発言の要旨	資料3に基づき、青葉消防署から報告。